

## 第2次常総市都市計画マスタープラン策定委員会【第5回】 議事録

1 開催日時 令和6年2月7日（水）午後3時から午後4時

2 場 所 常総市役所議会棟2階 大会議室

3 議 事

(1) 都市計画マスタープラン（案）について

### ■議事要旨

・地域別構想の将来像の書き方が趨勢的で分かりにくいいため、表現を検討されたい。また、計画書では鬼怒川西地区で色々仕掛けたいと読める一方で、人口減少についても触れているので、設定しているKPIの居住誘導区域の人口密度をどのように達成するのかを検討した方が良いと思う。また、居住誘導区域の図面が載っていないため、記載されたい。

→ご指摘のとおり修正を図っていく。

・計画の前半は集約、コンパクトの必要性を言っているが、具体的な戦略になると市街地の拡張が先行している。集約やコンパクトに関する施策の記載がないため、不用意に広げないということも書くべきではないか。また、パブリックコメントを1か月実施し、意見が出なかったことを喜んではいけないと思う。都市構造では地域を再編するような思いを書き込んでいると思うため、例えば地域に入って学校統廃合の話をする際には都市計画も併せて説明する等、今後の市民周知の方法を考えていくべきである。どのように市民に伝えて、市民と一緒にまちづくりを実現していくかを書き加えていただきたい。

→ご指摘のとおり修正を図っていく。

・少子高齢化・人口減少のなかでの市民生活はその地域が基盤となる。乗り合い交通の利用者は高齢者が大半で、行き先は病院や買い物をする場所が多い。車社会から公共交通という流れを作り、その環境を整備していくことは非常に大切であり、必要であると思う。

・KPIに設定している関東鉄道乗降者数はコロナ以前の数字にした方がいいと思う。また、駅前のまちづくりも都市マスに記載しているので、その目標を達成するための具体的な内容があるとより良いと思う。また、ゆくゆくは道路と鉄道を一体に整備し、広い道を作ることや歩行者や交通量が少ない踏切は閉鎖する等も検討していきたい。

→まちづくりの基本は駅になるので、今後は都市再生整備計画を作りながら進めていきたい。遮断機のない踏切等への対応は関係部署とも連携しながら検討していきたい。

・現在、アグリサイエンスバレー常総に多くの方が訪れている。人口が減る中で新しく住む場所を用意するための議論は難しいと思う。しかし、今後の展開として農業のベンチャー企業等が常総市に来れば若い世代が来ると思うが、その時にどのように迎え入れられるのかが懸念される。常総市に働く場があるのにつくば市等に生まれてしまうのは勿体ない。例えばある活動が上手くいけば住む場所を整備するというような内容も入れてもいいのではないかと思う。

- ・今回の計画は目標年次が令和 22 年までであり，短期・中期・長期というシナリオを作っているが，ある一定期間で見直しが必要になると思う。例えば，P D C A サイクルを機敏に回し，1 年で解決するもの，10 年，20 年間を続ける等という書き方も検討されたい。
- 5 年に限らず，定期的な見直しや毎年 P D C A を見直す等の記載はあるが，合わせて事業の入替えや事業の拡充・廃止を検討していきたいと思う。
  
- ・ KPI の指標の示し方は都市マスの基本的な考え方である「川との共生」，「公民連携の推進」，「地域産業の活性化」に合わせた形が良いと思う。
  
- ・「川との共生」について，現状は有事の際の避難方法に関する広報と堤防強化，リスクの少ない市西側地区の開発が対策として記載されている。今後の話として，どのように川と共生していくのかということを検討することが必要である。
- 現状として，内水対策等の検討が進んでいる。茨城県管理河川のハザードを含めて，防災先進都市というまちづくりの取り組みをしていくという内容も検討したい。
  
- ・ KPI に関するページについて，防災の内容を加えて 3 つにし，都市マスの基本的な考え方に合わせる形とし，その結果が居住誘導区域の人口密度を維持するという内容にしてみてもどうか。人口が減少する中でも活力あるまちづくりを進めるとすれば収まりが良くなるのではと思う。

(以 上)